



新入社員への手紙

『物づくりの醍醐味を感じてほしい』

新入社員の皆様、この度は入社おめでとうございます。人生の新たな門出の日を迎えるに当たり、様々な希望を抱き、4月を迎えることと思います。わたしも新入社員当時のことを思い出し、お話しをしたいと思います。

私は、20年前にナカノフドー建設に入社しました。私が入社した当時は、バブル経済がはじけ就職氷河期へと突入した頃です。私が会社に入りまず教えられたことは、設計図を読むことでした。その設計図に書かれているものは、何の目的で作られるものなのか、ただ設計図に書かれている寸法とにらめっこするのではなく、設計図に書かれている構造物を作る目的を読み解けと言うことでした。

土木工事において作られる構造物は、治水が目的であったり、耐震が目的であったり、必ず目的があって作られるものです。新入社員で入った最初の頃は、設計図を見ても全く理解できませんでした。しかし、この構造物は何のために作っているのだろうという視点を常に持つことを心掛ければ、おのずと構造物の目的を理解できるようになり、理解が深まれば面白みも増え、また視野が広がります。これは、いまでも心掛けていることであり、土木工事においてだけでなく、物作りの基本中の基本だと考えています。

そして、ある程度設計図を読み解くことが出来るようになった頃、今度は先輩に「設計図を理解できるようになったのなら施工図を描いて見ろ」と、石積擁壁の施工図を任されました。しかし、設計図を理解すれば物は作れると考えていたので、当時の私は設計図と施工図の違いがわかりませんでした。施工図は、設計図に現地の地盤高さや土質条件などをあてはめ、実際に施工するための図面のことを言います。

とにかく私は施工図を描くために、自分でレベルを持って現地の高さを測ったり、擁壁の根入れを検討したり、石の割付けを考えたり、曲線部分

に配置する石の間隔を計算したり、寝る間を惜しんで図面を描いた記憶があります。そして、苦勞して描いた自分の施工図通りに物が出来上がって行くところを間近で見ると、何とも言えない喜びと達成感を感じました。今でも自分が担当した現場に行くと、当時のことが鮮明によみがえります。

建設業界は、他の業界に比べ、こういった達成感・充実感を間近に味わうことのできる業界だと思っています。

橋や道路など地図に残る仕事に携わった時には、更に達成感は増すと思います。世の中に自分の軌跡を残すことのできる仕事、やりがいのある仕事、これが物づくりの醍醐味なんだと感じると思います。

その反面、自分の軌跡を残すということは、大きな責任を負うことでもあり、大変なことや、苦勞はつきものです。しかし、努力を惜しまず、粘り強くやり抜いた人には、必ず人生に残る達成感を味わうことはできると思います。

土木業界は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、たいへん活況ある時代を迎えています。新入社員の皆様には、大変なことや、不安もあるかもしれませんが、しかし、変化の激しい時こそ、面白いこともあると思います。勇気をもってチャレンジする人に、チャンスは訪れると思います。

皆様の新しい出発を心よりお祝い申し上げます。これから、皆様と共に、土木業界の明日、そして社会の明日を実現していくことを楽しみにしております。一緒に頑張っていきましょう。

株式会社ナカノフドー建設

土木支店 土木工事部

所長 佐々木 剛

